

「富士山の森づくり」プロジェクトの概要

1. 趣 旨

平成 14 年に大規模な病害虫の食害が発生した富士山麓の森林（山梨県鳴沢村の県有林：シラベ林虫害対策事業地）約 100ha の土地において植栽を実施し、日本の象徴である富士山の美しい森の再生を目指し、森づくりを行うもの。

2. 森づくりの指針

山梨県では、被害地の早期復旧と被害地周辺隣地の被害予防のため、さまざまな樹種（針葉樹と落葉広葉樹）を混交して森づくりを進めようとしており、富士山の自然環境景観にふさわしい森林を早期に復元するため、当プロジェクトでは次の 3 点に重点を置き、活動する。

- ・ 天然林の成熟段階（ブナ、ミズナラなどを中核とする森）に近づけた森林を人工的に造る。
- ・ できるだけ富士山の自生種を用い、環境変化に対して耐性のある遺伝的多様性の高い森林を造る。
- ・ さまざまな機関や団体の参加・協働のもとに森林づくりを実施する。

3. 計画概要

- 名 称： 「富士山の森づくり」
企画主催： （財）オイスカ（<http://oisca.org/>）
共 催： 「CO₂ダイエット宣言」実行委員会（事務局：東京電力）
協 力： 山梨県
実施場所： 山梨県鳴沢村、富士山麓の山梨県県有林（標高 1,600m）【下図】
面 積： 約 100ha（うち植栽面積約 50ha）



実施場所位置図



植栽予定地

病害虫の食害により間伐を行った場所に植栽予定